

第 1 回 CBDC フォーラム全体会合における開会挨拶

日本銀行理事 清水 誠一
2023 年 7 月 20 日

本日は、CBDC フォーラムにご参加頂き、誠にありがとうございます。日本銀行では、本年 4 月から、CBDC のパイロット実験を開始しました。パイロット実験は、相互に密接不可分な、2 本の柱からなっています。

柱の 1 つは、日本銀行における技術的な実現可能性の検証で、もう 1 つがこの CBDC フォーラムです。技術・運用の両面にわたって、民間事業者の皆様の技術や知見を活用させて頂きながらともに検討を行い、社会的に実装することになった場合の設計に活かしていきたいと考えています。

初めての会合ですので、私として CBDC フォーラムに期待することをいくつか申し上げたいと思います。

第 1 に、参加される皆様一人一人が主役として、議論に加わる場となることです。CBDC フォーラムには、多様なバックグラウンドを有する民間事業者の参加を頂きました。すべての参加者の方が、それぞれのエキスパティーズをもとに闊達な議論を行う場になることを願っています。

第 2 に、「未来」を意識した議論の場となることです。決済を巡る環境はこれまでも変化してきましたし、これからも変化していくでしょう。そうした変化を意識しながら、決済システムが全体として安全性・効率性をどう確保し続けていくか、また CBDC がオープンなイノベーションにどう貢献できるのか、といった視点で議論することが重要と考えます。

第 3 に、CBDC を使う人々のことを意識した議論の場となることです。CBDC が社会に受け入れられるためには、サービスの供給に関与するステークホルダーが納得するような制度設計であるとともに、消費者、商店などのサービス利用者が快く使いたいと感じることも必要です。

第 4 に、グローバルな観点も忘れてはならないということです。日本国内の決済市場に相応しい設計とすることが必要ですが、そのことだけを意識した結果、世界の標準的なやり方とフィットしない仕組みになると、デジタルの世界では決定的なディスアドバンテージになる可能性があります。日本銀行からは、中央銀行間の協力関係などを通じて得た

海外の状況もご紹介し、議論に役立てて頂ければと考えています。

わが国で CBDC を導入するかどうかは、今後の国民的な議論の中で決まってくるものです。こうした議論に資するよう、また、今後の様々な環境変化に的確に対応できるよう日本銀行が準備を行ううえで、CBDC フォーラムの果たす役割は重要です。皆様、どうかよろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。